「平和の王様」

イザヤ書 11:1-10

エフェソの信徒への手紙２:14-18

２０２３年１２月１７日

野村　友美 師

＜アドベント３週目に入って＞

　いよいよ３本目のロウソクに火が灯りました。今日からアドベントの３週目、来週はいよいよクリスマス礼拝です。

すべての人のために、救い主がこの世界に来られた。神様の独り子が、人間の赤ちゃんとしてお生まれになった。この不思議で喜ばしい出来事を記念するために、今年も世界中でクリスマスが祝われます。せめてクリスマスぐらいは平和であってほしい、そう願わずにはいられません。

今もウクライナとロシアで、ガザとイスラエルで、この世界のあちこちで、人が人を傷つけて踏みにじって命を奪う争いが続いています。

戦争や紛争が起きていないからといって、そこが「平和」だとも限りません。強い力を持つ人たちが、弱い立場に置かれた人たちを支配して、

思いのままに自由と尊厳を奪って、安全を脅かしている。もしそんな状況で、自分が弱い立場の側に置かれていたら、どうでしょうか？

たとえ争いは起きていなくても、それを「平和」とはとても呼べないでしょう。

ある人にとっては平和でも、別の人にとってはとても平和とは言えない。そういう状態は、遠いどこかの話じゃなくて、私たちの身近なところにもありふれているものだと思います。

いじめや家庭内での暴力は、その最たるものでしょう。国同士であれ、個人的な関係であれ、「平和」であり続けることが私たち人間にとって何と難しいことなのかと、日々思わされます。

だからこそ、いつの時代も、どんな場所でも、私たちすべての人を神の国の「平和」に招くために、聖書は今日も神様の言葉を私たちに伝えているんです。クリスマスを待ち望むアドベント３週目の朝、改めて私たちは神様の言葉に向き合ってまいりましょう。

＜聖書が語る「平和」＞

　今日ご一緒に読んでいるイザヤ書の言葉は、救い主の誕生を予告しています。イザヤという人は、神様の言葉を預かって人々に伝える役目を任されていた「預言者」と呼ばれる人の一人でした。外国からの侵略におびえて、怖くて不安な毎日を過ごしていた同胞たちに、イザヤは神様からの言葉を伝えていました。神様が私たちに、一人の救い主を送ってくださる。その人は神様の知恵と力で、この世界のすべての人に神様の平和を実現する。今日の言葉でイザヤはそう伝えています。

「平和」という単語は出てきませんが、イザヤがここで描いている状態はまさに平和そのものだと言ってもいいでしょう。

誰も身分や立場によって理不尽に踏みつけられないで、ただ神様の正しさによって扱われる。

どんな生き物も傷つけ合わずに、互いを大切にし

ながら一緒に生きられる。そんな平和をもたらす救い主がイスラエルに現れる、とイザヤは予告したんです。エッサイの株から一つの芽が萌えいでる、その根から一つの若枝が育つ、とイザヤはこの救い主の予告を語り始めます。

エッサイというのは旧約聖書のサムエル記に登場する人の名前です。このエッサイは、ダビデという王様のお父さんにあたる人でした。

ダビデ王は、イスラエルの最初の王様だったサウル王の後に神様から選ばれて王様になって、紀元前１０００年にイスラエルを一つの大きな王国として統一しました。

ですがその息子のソロモン王の後、イスラエルは北イスラエルと南ユダの二つの国に分かれてしまいます。イザヤの時代、北イスラエルはアッシリアという国に侵略されて、イザヤがいた南ユダにもまさに危険が迫りつつありました。

そんな状況の中で、今こそ神様に信頼して、神様の言葉に従うようにとイザヤは南ユダの人たちに訴え続けていたんです。神様の民だったはずのイスラエル人たちは、神様に信頼して従うよりも、自分たちに都合がいいと思えること、自分たちの好みに合うやり方を選ぶようになっていました。

そしてその結果、人々はどんどん自分たちの欲求や、誘惑に引きずられていきました。

国は分裂して、豊かな人と貧しい人との差が広がって、権力を持つ人たちが他の人々を抑圧して、自分の欲望を満たすために利用しました。

神様から命を与えられて愛されている一人の人間として、誰もが持っているはずの尊厳が理不尽に踏みつけられて、不公平と不正が当たり前のことにされてしまう。

　そんな状態に陥ったイスラエルを、神様は外国の侵略という形で倒してしまわれた、と聖書は伝えています。イザヤがいた南ユダも、結局はバビロニアという国に侵略されてしまいました。

自業自得、自分たちの間違いの結果だ、と人々は嘆いて絶望しました。それでも、イザヤが伝えた神様の約束が、彼らを生かす希望になったんです。

神様は決して御自分の民をお見捨てにはならない。これから何が起こったとしても、神様はエッサイの根から、私たちの中から、新しい救いの出来事を芽生えさせてくださる。

そうイザヤは語りました。

切り倒された木の切り株から、新しい芽が生えてきて、力強く枝を伸ばすように。切り倒されてしまったように見える人々の中から、神様は救いを芽生えさせてくださる。

すべての人が神様の愛と正しさのもとで、平和に生きられるようになる日が来る。この神様からの約束を受け取って、「平和の王様」としてやって来る救い主をイザヤは告げ知らせたんです。

＜平和の王様＞

救い主がもたらす平和を、イザヤは不思議な姿で描きます。狼は小羊と、豹は子山羊と、ライオンは子牛と一緒に生活して、人間の小さな子どもが動物たちの世話をする。動物たちはみんな干し草を食べて、小さな子どもと毒蛇が仲良く遊ぶ。

襲うものと襲われるもの、という敵対関係だった

生き物たちが寄り添って一緒に生きるようになる、とイザヤが描くこの光景に、旧約聖書の創世記が伝える世界創造の物語を思い出す方もおられるでしょう。すべての生き物は青草を食べて生きるように造られた、という記述が確かに創世記の１章の終わりの方にあります。

でもイザヤが予告している救い主は、今私たちが生きているこの世界をリセットして、最初の状態に戻すために来られるんじゃありません。

私たちの罪も弱さも、欲望にまかせて人を踏みつける自分勝手さも、何もなかったみたいにリセットされるわけじゃないんです。

平和を実現する救い主は、切り倒された木の切り株から新しく芽生えるようにやって来られる、とイザヤは最初に宣言しています。私たちの不安も弱さも罪も、敵対する関係も、傷つけられた尊厳も、不都合なものは全部なかったことにして無視されるんじゃなくて、神様の基準で正しく裁かれる。その上で、命をあたえられたすべてのものが、神様の平和を生きられるようになるんだ、とイザヤは今日の言葉ではっきりと伝えています。

誰も予想できなかったし、誰も期待できなかった、そんな新しい救いの出来事を引き起こすために、平和の王様はやって来るんです。

理不尽に傷つけられた悲しみと怒りから、私たちを助け出して慰めるために。

わかっていても抜け出せないで、罪にしがみついて離れられなくなっている私たちを救い出して、解放するために。

神様から命を与えられたすべてのものが、お互いを傷つける敵対関係を捨てて一緒に生きられるようになるために、この世界の真っただ中に救い主が来られる。そうイザヤが予告した通りに、新しい救いをもたらす救い主は、誰も予想していなかったことを引き起こすために、誰も予想しなかった姿で私たちの世界にやって来られました。

神様のひとり子は、エルサレムの中心にある王宮じゃなくて地方の田舎町の家畜の居場所で、ごく普通の、裕福とはとても言えない夫婦の間に、か弱い赤ちゃんとして生まれてこられたんです。

しかもこの救い主は、圧倒的な強い力で敵を倒したり、誰かを悪人として懲らしめたりはなさいませんでした。その代わりに、すべての人の罪の責任を身代わりに背負って、十字架で死なれました。

その死から復活して、神の国の新しい命を私たち一人一人にも差し出されたんです。

何から何まで新しい予想外の出来事を、救い主イエス様は引き起こされました。

　この救い主、イエス・キリストこそが私たちの「平和」だ、と新約聖書の使徒パウロはエフェソの教会に宛てて、つまり異邦人である信仰の仲間たちに伝えています。

新約聖書のエフェソの信徒への手紙２章１４節から１８節です。

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の内において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律ずくめの律法を廃棄されました。

　こうしてキリストは、双方を御自分において一人の

新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、
十字架によって敵意を滅ぼされました。
キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。
それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。」(エフェソ2:14−18)

ユダヤ民族と異邦人、文化も宗教も価値観も違う自分たちを、イエス様の救いが一つに結び合わせた、とパウロはエフェソの人たちに書き送りました。それも、異邦人であるエフェソの人たちがリセットされて、自分たちユダヤ民族に統一された、なんてことじゃなくて。
イエス様を救い主だと信じる信仰によって、自分たちの間にまったく新しい関係、「平和」がもたらされた、とパウロは宣言しているんです。
誰も予想していなかった新しい平和を、イエス様は実現なさいました。一方がもう一方を支配して、押さえつけて、誰かの自由や命や尊厳を犠牲にして成り立つ「平和」じゃなくて。
お互いの強さも弱さも、立場も価値観も、すべてを超えてすべての人を神様の愛のもとに結び合せる「平和」、新しい平和の関係を造り出す救い主がイエス・キリストという御方なんです。
だから私たちはどんな時でも、イエス様に期待していいんです。
　どんなに行き詰まっても、先が見えない状況でも、どれだけ自分や他の人に絶望しても、イエス様は私たちの弱さも違いもすべてを超えて、新しい救いを見せてくださる御方です。
私たちの予想を超える平和を、私たちの真っただ中で実現する平和の王様が来られた。それが、クリスマスに私たちが喜び祝う救い主誕生の出来事です。そういう救い主を神様は私たちにくださったんだ、と聖書は伝えています。
平和の王様、救い主イエス様の誕生を喜び祝うクリスマスを、私たちは今年も迎えようとしています。私たちの罪も弱さも、神様の愛と正しさで覆ってくださる救い主。
すべてを超えて新しい「平和」を見せてくださるイエス様に期待して、今年もご一緒にクリスマスを待ち望みましょう。
世界中のあちこちで、争いのただ中で、今この時も痛み、傷つき、苦しめられているすべての人に、この平和が一刻も早くあらわされますように、
ご一緒に祈り求めてまいりましょう。
お祈りいたします。